

**2020 年度 A O 選抜 グローバル教養学部**  
**「4 月入学総合評価（10 月選考）方式・4 月入学総合評価（12 月選考）方式」**

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

入試方式・試験型	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
グローバル教養学部 4 月入学 総合評価方式（10 月選考）	21	21	10
グローバル教養学部 4 月入学 総合評価方式（12 月選考）	15	14	11
学部計	36	35	21

**2. 試験内容**

(1) 第一次選考

高等学校等の成績と Essay1・Essay2 の内容を総合的に評価しました。Essay1・Essay2 の内容は以下の通りです。

①Essay1

Choose ONE topic from the following list (Topic Options for Essay 1) and identify one issue that you think is most significant within the chosen topic to describe your views (approximately 300 words).

[Topic Options for Essay 1]

No.1 My Experience of Cultural Diversity

No.2 Globalization in the Pre-modern Era

No.3 The Future of Books and Publications

No.4 The Future of Art

No.5 Global Hegemony in the 21st Century

No.6 Privacy and Human Rights in the Digital Era

No.7 Asia Pacific as a Region

No.8 The Future of Capitalism

No.9 Technological Advancement and Human Creativity

②Essay2

Explain why you wish to study at the College of Global Liberal Arts at Ritsumeikan University (approximately 300 words).

## (2) 第二次選考

Essay1・Essay2 の内容に基づいた、英語での 20 分程度の個人面接を実施しました。

## 3. 出題の意図

### (1) 第一次選考

Essay1 の出題意図は大きく分けて二つあり、Topic Options に対する受験生の知識力や理解力の評価と、思考力や判断力の評価にあります。Essay2 の出題意図は、受験生の関心と意欲、積極的態度を評価し、グローバル教養学部を志願する理由を確認することにあります。そして、Essay1 および Essay2 で共通する出題意図は、情報を適切に収集・分析する能力、自らの考えを明確に表現し議論する能力、そして Essay の構成や修辭法を含む英文による文章力について丁寧に審査・評価することにあります。

### (2) 第二次選考

個人面接の意図は、英語での質疑・回答・討論の一連の流れを通して、面接対象者の Topic Options に対する知識力および理解力をさらに具体的に確認することと、面接対象者のプレゼンテーション力、会話力、他者と協働する姿勢について、丁寧に審査・評価することにあります。

## 4. 評価のポイント

### (1) 第一次選考

Essay1 では、人文学および社会諸科学の幅広い教養を学ぶ上での知識について、受験生がどの程度の知識を持っているか、さらにその知識をどのように活用しているかが評価のポイントになります。論理的および批判的議論をしっかり展開すると共に、グローバル社会における倫理的判断力を持っていることをアピールするところが高い評価ポイントになります。また Essay2 では、受験生が人間社会への多様性と今日のグローバル社会の出来事に強い関心を示し、グローバル教養学部で学ぶことへの高い意欲と関心、そして学びについての明確な積極性とビジョンを示しているかが評価のポイントになります。そして、Essay1 および Essay2 とともに、文章の構成・内容・タイトルに留意しながら、英語でどの程度作文ができるかが評価のポイントになります。

### (2) 第二次選考

Essay1 に基づく面接では、受験生が、その思考において論理性や一貫性、批判的思考能力をどの程度持ち、また Topic Options に対してどのような問題意識や現状認識を持っているかが評価のポイントになります。また Essay2 に基づく面接では、グローバル教養学部で学ぶことへの積極性と意欲をどの程度持ち、また他者とどのように協働していきたいか、さらに今後の自身のビジョンをどの程度描けているかが評価のポイントになります。そして、Essay1 および Essay2 とともに、的確な表現でコミュニケーションを行う能力がどの程度あるか、また自分の考えを明確に表現し、対話の中で適切に意志を伝える能力がどの程度あるかが、評価のポイントになります。

## 5. 解答状況

### (1) 第一次選考

多くの受験生が、高い英語力とライティング・スキルを持ち、正しい文法と正確な表現・適切な用語で、Essay1 と Essay2 を作成していました。Essay1 については、新聞やネットの記事、調査資料や学術書籍など、複数の参考文献・参考資料を的確に引用しながら、受験生本人の見解を明確に表現している Essay は高く評価されました。Essay 2 については、何より立命館大学とオーストラリア国立大学（以下、ANU）が一丸となって新たなリベラルアーツ教育に取り掛かることに高い興味と共感を持ち、そこから自分のビジョンと勉学について建設的でグローバルな視点での抱負を表現している Essay は高く評価されました。評価ポイントをおさえられていた受験生は約 9 割 7 分程度であり、能力のばらつきは全体的には目立っていなかったものの、最上位と最下位の間の評価の差は顕著でした。

### (2) 第二次選考

英語でのコミュニケーションに問題がある受験生はいませんでした。Essay1 に基づく面接では、多くの受験生が面接官の質問を傾聴し、流暢に会話を運ぶ能力とともに、話す内容における論理性や一貫性、問題意識や現状認識を持っていることを確認しました。Essay 2 に基づく面接においても、多くの受験生が勉強と大学生活への意欲、自己啓発に留まらず立命館大学と ANU への高い関心と社会貢献への抱負を持っていることを確認しました。評価のポイントをおさえられていた受験生は約 8 割 1 分程度であり、全体的に突出した能力のばらつきはなかったものの、最上位と最下位の間の評価の差は顕著でした。

## 6. 次年度受験生へのアドバイス

グローバル教養学部で求める人材像は、多読による博学さや高い暗記能力・論理的思考力・演算能力のみに長けた古い知性人のイメージではありません。世界規模で激増するデータ・情報の処理技術を基盤とする機械学習能力の加速が著しい人工知能との共存が必須となる時代を迎える中、「知性とは何か、知性人とは何か、人類の繁栄と発展のために知性はどう活かされるべきであるか」などの疑問を常に抱き、積極的に考察する学生をグローバル教養学部は求めます。読書量のみ頼る多読ではなく、日々の問題意識から生まれる特定のテーマを軸にして、既存の常識と枠を超える多様な組み合わせを試みながら独創的知見を構築し、受験で表明することが重要です。さらに、グローバル教養学部では自ら異文化体験や異見に接し、自己啓発に励む姿勢を大切にします。他者との共感力や協働能力の上達についても毎日熱心に考え、たくさんの経験をして下さい。

以上